



R7.2.27

令和6年度 朝日中学校 学校だより

だのっこ

鶴岡市立朝日中学校

TEL:53-2092

Fax:53-2091

Mail⇒



2/25 3年生を送る会を開催しました



新執行部として、初めて全校を動かす機会となる「3年生を送る会」が25日に開催されました。

3年生にまつわるクイズ大会でしたが、3年生だけでなく、参加した皆さんの楽しそうな表情を見ることができました。クイズ大会の後には、3年生に対して「ありがとうございました」、1,2年生に対して「これからも頑張るね」という言葉とともに在校生からのメッセージが3年生に渡されました。学年関係なく、みんなお互いの「人となり」を知っている間柄だからこそその温かさを感じ、微笑ましく見させていただきました。

さて、秋山は大成功だったと思っている「3年生を送る会」でしたが、新執行部の皆さんはどう感じたでしょうか。執行部としては、この行事の「ねらい」は達成できたと感じていますか？

今後予定している企画や取り組みについて、人は一人ひとり違って、自分が得意なことが、ある人は不得意だったり、自分ができることを隣の人はとても簡単そうにこなしたりすることがあるのと同じように、自分は「いい」と思うことを別の人はそう思わないことが往々にしてあります。そんな時大事になってくるのが「ねらい」の共有です。

その「ねらい」とその実現のための具体的な手立てについて理解を得られることが成功と成長のカギだと思います。来年度の活躍と更なる成長を期待しています。



2/24 地域語り合い～交流編～が開催されました

三連休の最終日、2月24日に中央コミセンを会場に「地域語り合い～交流編～」が開催されました。1日からのKCTウィークリーでも放送予定なので、そちらもご覧ください。

何度か参加についてお願いしたところ、7名の生徒に参加していただきました。どうもありがとうございました。

最初に移住された4名の方から、それぞれが感じる「朝日のよさ」等をお聞きしました。

朝日のよさは「自然の美しさ、冬の白さからの春の芽吹き」。野山を散策したり、川遊びをしたり。都会ではできないことを



体験できる。朝日は（自分にとっては）娯楽だらけだ、と語られた方もいらっしゃいました。

また、朝日に限ったことではないのかもしれませんが、都市部に比べて家が広いことをあげられていました。中には、ご事情があって朝日に来られた方もいらっしゃいましたが、「朝日を離れようとは思わなかった」という言葉が強く印象に残っています。

今回の「地域語り合い～交流編～」や学校だよりで「慶應義塾大学先端研中学生見学会」への参加を度々呼びかけているのは、君たちに「新しい価値観」に触れ、視野を広げることで、自分の持っている力、可能性に気づくチャンスをつかんでほしい、と強く思っているからです。

よく見知った人と話したり、同じ時間を過ごすことは、とても過ごしやすいことだと思う一方、初対面の人と話したり、今まで行ったことのない場所、例えばそんなに興味のない機会を経験することは、エネルギーの必要なことだと思います。しかし、知らないことを知り、今まで経験したことのない時間を過ごすことで、君の「未来の選択肢」が増えるんじゃないか、と思っています。「未来の選択肢」が増えるということは、より自分に合った、自分の好きな、自分の強みを生かした未来をつかむチャンスが広がるんじゃないかと思うんです。君たちには、自分が納得できる生き方を見つけるヒントになるかもしれないと思って、いろんな機会をご紹介します。

そしてその選択肢の中から選んだ君の未来が、自分の夢を叶えつつ、周りのために自分ができることは何かを考え、実行してもらえればいいんじゃないか、と思っています。



朝日地域に限らず、同様の課題を抱えている地域はいたるところに存在しています。地域語り合い～交流編～では、人口減少をはじめとする地域課題解決のためには、ここにいなくても（戻らなくても）できることはあるんじゃないか、とお話しされる方もいらっしゃいましたし、ここに住み続けることが一つの解決策だ、とおっしゃる方もいらっしゃいました。

結果的に秋山は戻ってきましたが、どちらのご意見もとても理解できますし、どっちがいい、ということはありません。でも、戻るにせよ、戻らないにせよ、大切なのは誰かに言われて、ではなく自分から行動することだと思うんです。なんでもそうだと思いますが、誰かに言われてやることは長続きしないけれど、自分で決めたことなら頑張れるんじゃないかと思うんです。だから、地域課題の解決も地域貢献も、誰かに言われて取り組むんじゃなく、自分から進んで、できることに取り組んでもらいたい。例えば自分から行動を起こさなくても、行動している人に協力する、でもいい。誰かに強制されるんじゃなく、自分ができることを考えて取り組んでほしい、そう思います。そしてそのきっかけをつくったり、サポートをするのが大人の役割であり、その具体例が地域語り合いだったのでないか、と思います。

